

女の子だから、男の子だからをなくす本



ユン・ウンジュ/著 イ・ヘジョン/絵
すんみ/訳 ソ・ハンソル/監修
エトセトラブックス[367]

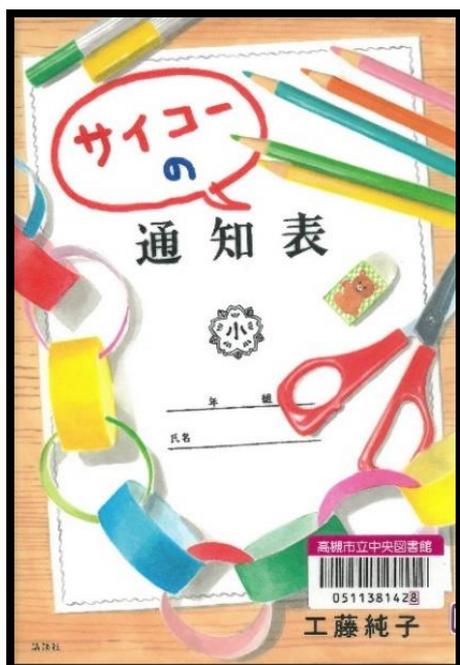
特集:2021年に出版された本

「女の子らしく」「男の子らしく」しなさいと言われたことはありませんか？自分でも「女の子だから」「男の子だから」と考えてやめたり、あきらめてしまったことはないですか？

韓国発信のこの本は、そんな性別の枠組みから自由になって、自分が目指す「ステキな人」になるためのヒントを教えてください。大切なのは、ありのままの自分をすきになる自信を持つことです。

明るく楽しいイラストが、子どもにも大人にも、理解しやすいように導いてくれます。

サイコーの通知表



工藤 純子/作

吉貫 恵/画

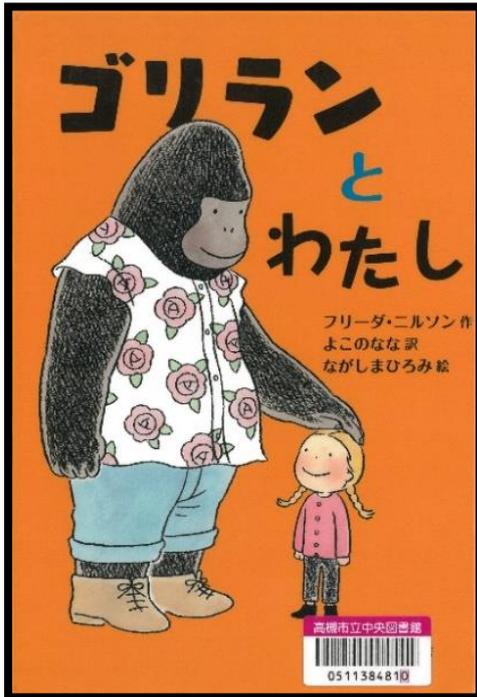
講談社[913クド]

通知表につけられた評価に不満を持っている朝陽は、友だちの大河、叶希も不満を持っていることを知ります。

朝陽は、お父さんから「会社では、部下上司の成績をつける」という話を聞き、担任のハシケン先生の通知表をつけようと提案します。ところが、いざ3人で通知表をつけようとすると、問題ができたので、クラス全員で取り組むことになりました。

ちょっとたよりにならなくて、先生らしくないハシケン先生に、子どもたちはどんな通知表をつけたのでしょうか。

ゴリラとわたし



フリーダ・ニルソン/作

よこの なな/訳 ながしま ひろみ/絵

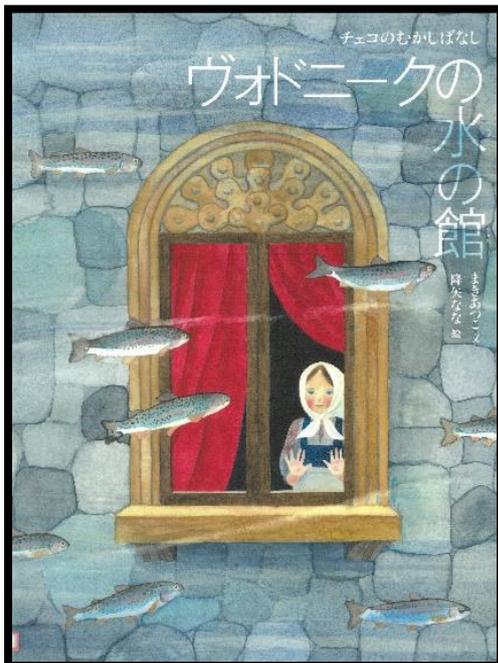
岩波書店〔949ニ〕

親のいない子どもたちの施設に、子どもを引き取りに来たのはなんと、ゴリラと名乗るゴリラ。9歳のヨンナが養子にえらばれた。

最初は「ゴリラに食べられる…」とこわがっていたヨンナ。だが、がらくた売りを手伝い一緒にくらすうちに、本好きで心やさしいゴリラをだんだん好きになっていく。ところが、風変りで楽しい二人の生活は、土地開発をたくらむ人間によって一変する。次々と待ち受ける困難にどう立ち向かうのか。

親子であり親友のようなゴリラと女の子のきずなをえがいた、スウェーデンの物語です。

ヴオドニークの水の館



まき あつこ/文

降矢 なな/絵

BL 出版〔エ〕

まずしい家でのくらしに、みじめな気持ちになったむすめは、川に身を投げようとしています。それを見つけた水辺の主ヴオドニークは、むすめを館へつれていきます。食事をふるまわれ、元気をとりもどしたむすめは、館で仕えることになりました。「つぼの中はのぞくな」といういつけをむすめはよく守っていましたが、あるとき、その中から声が聞こえてきました。

ヴオドニークとは、チェコで語りつがれてきた水の魔物です。人をおぼれさせるおそろしい存在である一方、親切でいたずら好きな様子も伝えられています。